

知っていますか？『オリンピックの初メダル』

パリオリンピックで日本選手団は、檀原市出身の新添左季選手が柔道団体で獲得した銀メダルを含め、金メダル20個・銀メダル12個・銅メダル13個の合計45個のメダルを獲得しました。日本選手の活躍でテレビ観戦しながら興奮し、喜び、明日への活力をいただくと共に、寝不足になられた市民の方もおられると思います。オリンピックのメダル数は国別で数えられることが多いのですが、国の代表ではなく、難民選手団として参加した37名のアスリートがおられたことはご存じでしょうか。オリンピック創始者のピエール・ド・クーベルタンの「オリンピックは参加することに意義がある。」との思いが継承され、参加の門が開かれています。2021年度開催の東京オリンピック2020でも29名のアスリートが難民選手団として参加していますが、メダル獲得は過去にはありませんでした。しかし、今回のパリオリンピックではカメルーン出身のジャンクヌガンバ選手がボクシング女子75キロ級で銅メダルを獲得し、難民選手団としては初めてのメダルを獲得しました。

ジャンクヌガンバさんは同性愛者であることをカミングアウトしておられますが、カメルーンでは同性愛は犯罪になってしまいます。現在はイギリスに移住しておられ2021年に難民申請が認められたので、オリンピック出場に至り、メダル獲得につながりました。ジャンクヌガンバさんの活躍が他の難民選手団の希望につながって欲しいです

ね。そして、「今時、同性愛が犯罪なのはあかんやろ。」との声が聞こえてきそうですが、同性愛が犯罪となってしまう国はカメルーンだけではありません。また、ジャンクーンガバンさんだけではなく、今回パリオリンピックに参加した約10,500人の選手の中で少なくとも198名の選手の方が自らがLGBTQであることを公表して大会に参加しておられます。日本では同性愛が犯罪になることはありませんが、同性婚についてなど『性の多様性』について私たちも今一度考えてみる機会にしてみませんか？